

平成 25 年 8 月 26 日

浜田市議会議長 濱松 三男 様

## 会派行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

会派 未来

三浦 保法



記

1. 期 間 平成 25 年 7 月 23 日 (火) ～7 月 24 日 (木)
2. 視 察 先 佐賀県佐賀市、大分県日田市、福岡県三潞郡大木町
3. 参 加 者 (会派未来 3 名、公明クラブ 1 名)

・岡本正友議員 ・布施賢司議員 ・三浦美穂議員 ・三浦保法議員

### 4. 視察又は訪問先及び調査研究事項

#### (1) 佐賀県佐賀市富士町 元気村ヴィレッジファーム(現地視察)

- ①施設見学
- ②廃校の利活用、植物工場としての取組

#### (2) 大分県日田市 バイオマス資源センター (現地視察)

- ①施設見学
- ②生ごみや豚糞尿などの有機物をメタン発酵処理をして、発生したバイオガス(メタンガス)で発電をする市の取組

#### (3) 福岡県三潞郡大木町 おおき循環センター(現地視察)

- ①施設見学
- ②市のバイオマスタウン構想の取組

### 5. 各視察先の調査内容

#### 【佐賀県佐賀市富士町】

#### <1>視察に至った経緯



統廃合によって廃校の利活用についての課題がクローズアップされている。  
地域コミュニティーの場としての他、家賃収入を視野においた産業施設の利用についても検討するため、先進地の視察を試みた。

## 〈2〉市の概要

佐賀市は、佐賀の中心部に位置し平成17年10月1日に1市3町1村(佐賀市、諸富町、大和町、富士町、三瀬村)が合併した。さらに平成19年10月1日には、川副町、東与賀町及び久保田町と合併し新しい佐賀市が誕生している。佐賀県の政治・経済・教育文化などの中心として発展する一方、脊振・天山山系の山並みや、平坦で豊かな佐賀平野、有明海に面するなど、バランスの良い都市である。

主な概要として、(H24年4月1日現在)

- 総面積 ----- 431.42 k m<sup>2</sup> (平成19年1月1日現在)  
田 109.27 k m<sup>2</sup> 畑 12.86 k m<sup>2</sup> 宅地 35.48 k m<sup>2</sup> 山林  
原野 100.86 k m<sup>2</sup> その他 172.95 k m<sup>2</sup>
- 人口 ----- 241,361人
- 歳入・歳出 歳入額 803億7,700万円 歳出額 779億300万円  
地方税 -- 305億7,800万円
- 財政力指数：0.67、実質公債費比率：10.4% 完全失業率 5.8%
- 職員数 ----- 398人 (含む消防職：57名)
- 議員定数 ----- 38人 (常任委員会の4、委員数9.5人)

## 〈3〉調査項目

佐賀県佐賀市富士町 元気村ヴィレッジファーム(現地視察)

現地説明者 元気村ヴィレッジファーム研究委員

農学博士 早川 啓亮 氏(株式会社 アルミス)

〒840-0514 佐賀県佐賀市富士町内野296

Tel.0952-51-0410 fax0952-51-0914

### ①施設見学

◆株式会社 アルミス 元気村ヴィレッジファーム

会社名 株式会社アルミス  
(英文社名 ALUMIS CO.,LTD.)

代表者 代表取締役 余田知彦

設立年月 平成元年10月

資本金 3,191万円

本社・工場

所在地 〒841-0011

佐賀県鳥栖市永吉町773-1

## 営業品目

1. アルミ型材・板材の販売
2. 仮設資材(アルミバタ材、アルミカラートラス)その他アルミ製品の製造販売
3. 農業用資材(アルミハウス、アルミリヤカー、アルミ育苗棚及び運搬車、アルミ巻取機)その他関連製品の製造販売
4. セレモニー用資材(ポータブルステージ、テーブル、講演台・司会者台、サインボード、屏風・パーテーション、レンタルクロス)、その他関連製品の製造販売
5. 人工光型植物工場の製造販売／実証栽培植物工場の運営
6. 近距離運搬車両(電動アシスト自転車・キャラクター自転車)及びアウトドアレジャー用品、その他関連製品の製造販売

## ②事業取組の経緯と運営状況

- ・統合による小学校の廃校施設の利活用
- ・地元産業の支援と雇用の創出
- ・軽作業に身障者をあてる
- ・施設の家賃の収入が見込める
- ・地域景観が守られている
- ・研究施設としても利用



## ③アルミス植物工場について

▲元氣村ヴィレッジファームにて

### ◆工場の特徴

1. ユニット構造で場所を選ばない(小規模から大規模までどんなスペース対応)
2. ガーター方式により少量の養液循環で廃液ゼロ!
3. 脱着が簡単のためメンテナンスが容易。常にクリーンな状態が保てる
4. 栽培植物の成長に合わせて、照明の照射高調整がワンタッチ(調整幅≒200 mm)

### ◆栽培野菜の特徴

1. 農薬を使用していないので、安心して召し上がり頂ける野菜の栽培
2. 生菌数が少ないので、野菜の鮮度が長持ち(密封個包装-冷蔵庫で3週間保存)
3. 天候の影響を受けない「植物工場」で栽培品種に合った最適な環境を整えることで安定した品種を安定栽培
4. 清潔な「植物工場」の環境に育った野菜。さっと水洗いで食せる。
5. 苦みや、えぐみが少なく、柔らかくて優しい食感の野菜を栽培

### ◆実証栽培野菜の一例

1. フリルレタス
2. ハンサムレッド
3. グリーンリーフ
4. ロメイインレタス
5. レッドパタピア
6. レッドオーク
7. グリーンオーク
8. サラダ葉

- 9・サンチュ 10・春菊 11・スーパセルリ 12・ミニホワイトセルリ 13・エゴマ  
14・スウィートパジル 15・シナモンパジル 16・ダークオパールパジル  
15・チンゲン菜 16・レッドマスタード 17・チョコゴリーイタリアンレッド  
18・ヒユナ

◆出荷先

- 1・学校給食 2・社員食堂 3・病院給食 4・百貨店, スーパー  
5・ホテル, レストラン 6・惣菜加工 7・自社店舗販売

◆栽培工程 栽培日数は栽培品種によって異なる

- 1・播種, 発芽(3~5日間) 2・移植, 育苗(20~30日間) 3・定植, 栽培(15~20日間)  
4・収穫(45~50日間)・・・栽培日数 40~50日

◆栽培野菜についての質問と回答

質問 1・水質と必要水量は？

回答 1・現在上水道を使用し、液肥主成分は窒素, リン酸, カリウム, マグネシウム等 1日  
150 ㎖循環水

質問 2・日照時間と室温設定は？

回答 2・LED 照明 12 時間点灯、室温を 22~23 度に設定

質問 3・栽培数は？

回答 3・120 ユニットの栽培数は 3,840 ポット、育成は 15 日間基本で、月 2 回収穫

質問 4・現在の生産量

回答 4・70~100g のレタス 148~200 袋/日 生産 単価 120 円

<4>所感

元気村ヴィレッジファームをつくるこの(株)アルミスは、木造平家建ての小学校の廃校を利用して、地元であるその企業が開発している栽培工場の設備を室内に設営、生産販売と共に研究を進め、他市他県等へ販売努力されている。

浜田市小学校廃校利用においては、このような施設の利用をすることが出来るなら、家賃収入が見込める点や、企業や福祉法人やNPO法人などへ施設利用を進め、新たな農業推進を図ることができる。

新規企業は、アルミスなどのコストを含めたノウハウなどを利用し、空き教室で天候や四季の寒暖に左右されない安全安心な食材を生産供給できることは、農業への女性グループやシニア産業の参入などの起業ニーズに最適であると考えられる。

これからの浜田市における快適に生産活動が可能な産業振興を考えた時、国や県、市の行政が何らかの支援を行う必要があると思う。その支援を受けながら、販売ルートが確保できれば、空間を有効活用する山陰では初めての未来農業が可能となるのではないかと期待している。

## 【大分県日田市】

### 〈1〉視察に至った経緯

大分県日田市の日田市バイオマス資源化センターは、主に生ごみと家畜ふん尿（豚）を原料にメタン発酵を行っている市の施設である。

日田市では過去に、ごみ焼却場でダイオキシンが検知されたため、当時の市長がごみの焼却処分を止める方針を打ち出すとともに、養豚農家が廃棄物処理法に対応しきれず、家畜ふん尿の処理に困っていた状況から、地球温暖化対策も意識して、メタン発酵による廃棄物処理を開始し生ごみ及び豚糞尿、農集排汚泥、焼酎かす等をメタン発酵させる発電に取組まれている。

当浜田市においても、養豚農家が家畜ふん尿処理で困っている状況と 近くにある観光施設などが、糞尿臭で観光の集客に弊害となって現状がある。また、ごみ焼却の増加によつての 自然豊かな石見の大気汚染が懸念される。そのような視点から先進地の取組を学ぶため、大分県日田市の日田市バイオマス資源化センターの視察を行った。

### 〈2〉市の概要

日田市は、2005年3月に旧日田市、前津江村、上津江村、大山町並びに天瀬町の1市2町3村が合併して誕生。北部九州のほぼ中央に位置し、周囲を阿蘇・久住山系や英彦山系の美しい山々に囲まれ、これらの山系から流れ出る豊富な水が日田盆地をながれている。古くから北部九州の各地を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代には幕府直轄地・天領として西国筋郡代が置かれるなど、九州の政治・経済・文化の中心地として繁栄し、当時の歴史的な町並みや伝統文化が今なお脈々と受け継がれている。

主な概要として、(H25年6月31日現在)

- 総面積 ----- 666.19 k m<sup>2</sup>
- 人口 ----- 68,962 人
- 一般会計当初予算 - 40,223,814 千円 (H24年度)
- 市税 - 7,408,891 千円
- 職員数 ----- 666 人
- 議員定数 ----- 24 人
- 財政力指数：0.41、実質公債費比率：8.1% (H22年度) である。

### 〈3〉調査項目

- 大分県日田市 バイオマス取組事例 (現地視察)  
現地説明者 日田市バイオマス資源化センター  
・綾垣 俊弘氏(前資源センター所長)  
その他  
資源センター所長  
・吉武 大三氏



〒877 - 1232 大分県日田市清水町 1906

TEL0973 - 25 - 5811 fax0973 - 24 - 2841

議会事務局次長兼総務係長

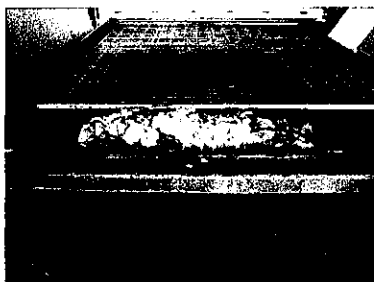
・田中 孝明氏

▲日田市バイオマスタンク前にて

①施設見学



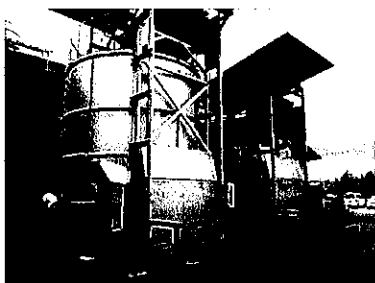
1・搬入物の重量を計るスケール



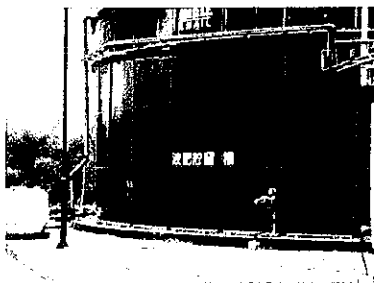
2・生ごみ受入ホッパ



3・メタン発酵槽



4・堆肥化施設



5・液肥貯留槽



6・液肥の無償配布用タンク

〈日田市バイオマス資源化センター〉



## ②事業取組の状況

### ◆生ごみ、畜産物ふん尿等の排出状況

- ・市内の一般家庭及び事業所から収集した生ごみ（平成18年見込み5000t）
- ・養豚農家から排出される糞尿（同見込み12,000t）  
小岩井農場（飼養牛頭数約1900頭）から排出される家畜排泄物等
- ・農業集落排水汚泥（同見込み1,300t）
- ・焼酎かす（同見込み1,000t）

### ◆事業の取組

- ・生ごみ及び豚糞尿、農集排汚泥、焼酎かす等をメタン発酵させ発電。
- ・発酵残渣は液肥・堆肥化し、地域の農家へ提供。
- ・栽培された米等は学校給食等に利用。
- ・メタン発酵させ発電（同見込み120万kwh/年）、施設内の電力を賄い、余剰電力を電力会社に売電。
- ・メタン発酵後の残渣の一部は、液肥・堆肥化、米、麦、白菜等の葉物野菜農家等に提供し、循環型農業の推進を図る。
- ・生ごみの分別については、市内自治会ごとの住民説明会
- ・市が開発した総合木材加工団地（ウッドコンビナート）内において、建設廃材等を燃焼させ発電を行う民間大規模施設（日田ウッドパワー：発電出力12,000kwh）が今年11月より稼働開始、木質バイオマスの利活用も推進。個別指導を実施し、徹底。

## ③施設特徴と運営状況について

### ◆施設の概要

施設の名称（フリガナ）	ヒタシバイオマスシゲンカセンター
施設の名称	日田市バイオマス資源化センター
所在地	大分県日田市大字三和1906番地
地方公共団体コード	44204
供用開始年月日	2006年04月01日
施設全体の敷地面積	15,452 m <sup>2</sup>

### ◆施設管理者

施設管理者名	日田市
ホームページ URL	<a href="http://www.city.hita.oita.jp">http://www.city.hita.oita.jp</a>

### ◆維持管理概要

	計画	実績
維持管理費	85,000 千円/年	89,545 千円/年
(2)・維持管理人員（常勤）	6 人	6 人
・非常勤人数	人	人

### ◆事業概要

事業名	日田市バイオマス利活用施設整備事業
-----	-------------------

事業主体名	大分県日田市	
総事業費	955 百万円	
助成制度利用の有無	有	
利用した助成制度名と助成主体名	助成制度名	助成主体名
	バイオマス利活用フロンティア整備事業	
	バイオマスの環づくり交付金	

◆メタン発酵の種別等

メタン発酵の種別	湿式
発酵温度設定	中温
発酵方式	浮遊生物法

◆メタン発酵施設の原料バイオマス

年間稼働日数	281 日/年				
搬入量(合計)	年間	16,477 t/年			
	日	58.6 t/日			
	1	豚ふん尿(混合)	7,345	50.0	95.0
	2	家庭(収集)生ごみ	3,512	14.7	80.0
	3	事業系生ごみ(給食以外)	2,172	7.2	80.0
	4	集落排水汚泥	1,287	6.0	98.0
	5	農産加工物残さ	2,161		

◆バイオガス

バイオガスの発生量	年間	1,152,821 Nm <sup>3</sup> /年
	日	3,158 Nm <sup>3</sup> /日
バイオガスの濃度 ※メタン発酵からの濃度	メタンガス	63.4 %
	二酸化炭素	36.0 %
	硫化水素	1,200 ppm

バイオガスの用途				
種類	総量	外部への供給有無	外部への供給量 (総量の内数)	供給先

◆副生成物

	種類	発生量(t/日)	活用又は処理方法
1	消化液	1.0	液肥利用 たい肥利用
2	処理水	61.0	



#### ◆施設についての質問と回答

質問 1・養豚農家から排出される糞尿の運搬は行政機関か又は民間委託か？

回答 1・養豚農家の自家用で運搬している他、民間運搬事業者に依頼している。

質問 2・養豚農家の周りのふん尿臭は改善できているか？

回答 2・ある程度改善されていると思っている。

質問 3・生ごみの分別への取組で、住民の協力と理解への周知方法は？

回答 3・広報活動とともに、市内自治会ごとの丁寧な住民説明会を行った。

質問 4・その他の質問

#### 〈5〉所感(まとめ)

日田市のバイオマスに取り組むきっかけ及び目的については、平成10年12月に、環境の国際規格であるISO14001の認証を西日本の自治体でいち早く取得し、環境問題に対し先進的に取り組む姿勢を示し、総合基本計画や環境基本計画の中で省資源・循環型社会形成を最重要に位置づけたところから始まる。

同じ時期に民間でもエネルギーやごみ問題を市民自ら改善していく機運が醸成され、地域環境を悪化させる原因となり、利活用が進んでいない豚糞尿や生ごみの利活用方策の検討が進められてきたことから、日田市バイオマスタウン構想が策定された。

具体的な取組として日田市バイオマス資源化センターの実績としては、一日平均で約5,000kWhが発電されている。

原材料は、豚ふん尿50t/日、生ゴミ24t/日、集排汚泥6t/日、焼酎粕7t/日を受け入れている。

初期投資額は9億円（国庫4億5千万円、県費9千万円、市費3億6千万円）である。

また日田市には、木質バイオマス発電を行う日田発電所（(株)日田ウッドパワーが運営）がある。この発電所は、建築廃材のみならず土木残材などの生木も原材料にすることができ（1日当たり300t）、蒸気タービンによる発電を行っている（出力：12,000kW）。発電した電力はすべて電気事業者に売電している。

東日本大震災後の原子力発電の汚染水の問題などにより、新エネルギーの確保が検討され始めているなか、浜田市の環境保全や産業発展を推進していく上でも新エネルギーの必要性についてあらためて考えさせられた。

## 【福岡県三潁郡大木町】

### 〈1〉視察に至った経緯

おおき循環センター(現地視察)

- ①施設見学 ②市のバイオマスタウン構想の取組

三潁郡の名称は水沼が変化して名づけられたと言われる。沼地であったこの地域で排水のよい地盤とするため先人が営々と作り上げたものが「堀」で、この堀が町全体を網の目のように巡り、農業用水や防火用水、生活廃水の放流先、地下水の涵養(かんよう)など生活と密接に関わっているのが町の特徴である。近年、生活廃水による集落内のクリーク(堀)の汚濁が問題化しており、住民団体を中心とした、堀再生への取り組みが盛んに行われている。

日常生活のなかから排出される生ゴミや廃食油を肥料、石炭、燃料油に加工して再利用することで、エネルギー消費を節約し、環境への負荷を軽くするため、生ゴミの分別、廃食油の回収を徹底してこれの堆肥化、代替燃料化を進め、地域内で再利用する循環型システムの構築を進めている。

当浜田市、次年度から浜田自治区(中心市街地)の分散型公共下水道事業に取り組む予定であるが、高齢化による宅内排水処理工事費やその後の維持費用の関係から接続が難しいところもあると考えられる。また、生ごみの減量化に処理機の助成を行うなどの取組を行ったが、その効果がみられない。そうして状況を考慮しながら、今後の自然を守る観点などから大木町の資源循環型農業への取り組みを学ぶため、この視察を行った。

### 〈2〉町の概要

大木町は、福岡県の南西部に位置し、九州の穀倉地帯筑後平野のほぼ中央にあり、水郷柳川に隣接した農業の町である。大木町を中心に取り囲むように、時計回りに、久留米市、筑後市、柳川市、大川市、と町境をなしている。福岡市から西鉄天神大牟田線を利用すると約1時間、車で九州自動車道(八女インターチェンジ)を利用すると約50分の距離にある。

温暖多雨の穏やかな気候にくわえて、町全体が標高4~5mのほぼ平坦な理想的な田園地帯となっています。また、町の総面積の約14%を占めるクリーク(掘割)が、町全域を縦横無尽に張り巡らしており、その歴史は荘園時代にまで遡るほど、かつてから日本屈指のクリーク地帯である。

主な概要として、(H22年3月末日現在)

○総面積 ————— 18.43 km<sup>2</sup>

○人口 ————— 14,546人(男6,854人、女7,692人)世帯数:4,530世帯

○一般会計当初予算 — 49億3,100万円(H25年度)

町税 — 12億9,675万円

○職員数 ————— 102人

○議員定数 ————— 13人

○財政力指数:1.05、実質公債費比率:9.6%(H23年度) である。



▲環境プラザ境公雄環境課長から説明を受ける



▲メタン発酵槽タンク前にて

### <3>調査項目

福岡県三潞郡大木町 おおき循環センターについて（現地視察）

①施設見学

②市のバイオマスタウン構想の取組

現地説明者 大木町環境プラザ

環境課長 境 公雄 氏

〒830 - 0405 福岡県三潞郡大木町大字横溝 2734-1

Tel.0944 - 33 - 2202 fax0944 - 33 - 2203

### ①施設見学



施設外観①



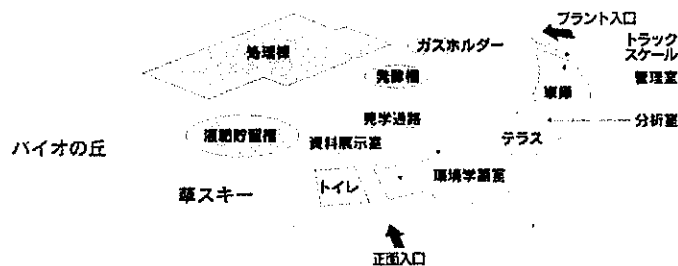
施設外観②



施設内外観



施設内観



施設配置案内図

■名称：おおき循環センター “くるるん”

■所在地：福岡県三潴郡大木町大字横溝 1331 番地 1 〒830-0405

★メタン発酵施設（工事名：大木町有機資源循環施設建設工事）

■建設工事の概要

設計・施工 三井造船株式会社九州支社

工期 平成 18 年 9 月 22 日～平成 18 年 10 月 30 日

建設工事費 519,960,000 円

■施設の構成

原料受入貯留・前処理施設、高温液化・メタン発酵設備

ガス貯留・エネルギー利用設備・液肥貯留設備・水処理設備、脱臭設備

■敷地面積 3,850 m<sup>2</sup>

■処理棟延床面積 520 m<sup>2</sup>

■処理能力 生ごみ：3.8 t/日 し尿：7.0 k l/日 浄化槽汚泥：30.6 k l/日

■処理方式 資源化：メタン発酵 水処理：高負荷脱窒素処理方式

★管理学習棟・バイオの丘（工事名：大木町循環センター建設工事）

■建設工事の概要

設計・施工管理 田崎順二 ランドスケーププロジェクト株式会社

施工 株式会社 熊丸組

工期 平成 18 年 1 月 11 日～平成 18 年 9 月 30 日

建設工事費 181,650,000 円 ■施設の概要

管理学習（環境学習室、作業室、車庫、事務室 資料展示室 トイレ、車庫）・バイオの丘

■構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 1 階建

■延床面積 460.48 m<sup>2</sup>

## ②事業取組の状況

### ◆建設の経緯

- ・それは～ごみ処理の限界から始まりました
- ・建設される以前の大木町の生ゴミは、大川市の清掃センターで焼却されていた。
- ・ゴミを焼却するとき、二酸化炭素が発生して、地球温暖化の原因になり、とくに、生ごみは水分を多く含んでいるため、焼却の温度を引き下げ、猛毒ダイオキシンを発生させる原因になっていた。
- ・焼却後に 1 割程度残る焼却灰の処分場も不足していて、焼却灰の処理費の高騰など、町の財政を圧迫していた。
- ・し尿については、それまで海洋投棄に頼ってきた。
- ・ ロンドン条約<廃棄物その他の物の投棄による海洋汚染の防止に関する条約>により平成 19 年 2 月から、海洋投棄の禁止が決まっており、早急な処理対策がもとめられていた。

・建設に至った【くるるん】は、従来型のごみ処理のみを行なう施設（迷惑施設と呼ばれたりする）とは大きく違う、町の暮らしに身近な存在として、建設された新しい考え方のバイオマスプラント。

◆大木町のごみ処理の状況

生ごみなど分別排出の徹底により23年度のリサイクル率56.5%(17年度)の伸び

(町から出るごみの量のリサイクル率)

	排出量(t)		23年度/17年度	23年度1人1日当たり(g)
	H17年度	H23年度		
燃やすごみ	3004.9	1448.1	48.2%	274
燃えないごみ	95.9	3.6	3.8%	0.7
資源ごみ	541.1	1885.1	348.4%	357
(内生ごみ)	—	(1176.6)	—	(223)
合計	3641.9	3336.9	91.6%	633
リサイクル率	14.9%	56.5%	+41.6%	

◆事業の取組

(1)大木町バイオスタウン構想は、地域づくりビジョン「循環のまちづくり」を具体化したものである  
(地域づくりビジョンとしてバイオスタウン構想を作成)

①背景となった「循環のまちづくり」ビジョン

②バラバラに展開されていた施策をバイオスタウン構想で一本化

(2)町の問題であった生ゴミ・し尿・浄化槽汚泥をエネルギーと液肥に転換

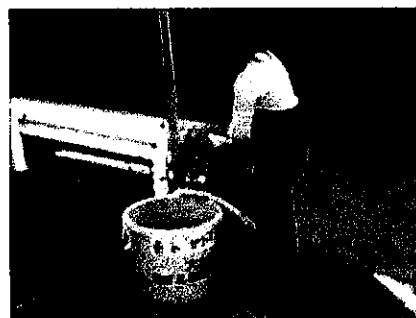
(3)バイオスタウン構想策定までの過程で、大学・研究機関との連携による豊富な実証実験の積み重ね

◆生ごみ循環事業の効果

- 1・ごみが半減(重量)する (ごみ減量効果)
- 2・地域ぐるみの協働事業 (地域の一体感)→前進
- 3・地域農業への貢献 - 有機肥料の提供
- 4・ごみ処理費の削減・・・



地域活性化に貢献



大木町有機物循環事業共同研究で生ゴミを地域で回収する風景

◆生ごみの資源化を支える地域循環システム

①生ごみの分別(家庭の台所,学校給食)→②発酵させ液肥化(バイオマスプラントで発酵、バイオガスと有機液肥)



④地元農産物の供給(液肥,堆肥使用) ←←③液肥の農地還元(有機肥料として農地へ返す)

### ③施設の運営状況について

◆バイオガスシステム(メタン発酵槽中温湿式 37°C22 日間)

- ・浄化槽汚泥(30.6 t/日)      ・し尿(7t/日)      ・家庭からでの生ごみ(3.8 t/日)
- ・バイオガス液肥(6,000 t/年)      ・バイオガス→発電・熱(発電機 25Kw2 基)



水稻・麦など土地利用型の作物に使用 水稻・麦 5~7 t /10a 散布面積 50h 液肥代無料  
散布料 1,000 円/10a

\*液肥利用の課題 ; 貯留と運搬・散布設備が必用 ; 成分調整と施肥基準 ; 臭い

### <5>所感(まとめ)

人口約 14,500 人、面積 18.43 平方キロの農業の町・大木町の取組は、循環型地域社会作りを目指し、平成 7 年度から資源ごみの分別収集、平成 12 年度に大木町地域新エネルギービジョンに基づく生ゴミ・屎尿等の有機系廃棄物の活用計画ならびに、太陽光など自然エネルギーの導入計画を導入している。また、住民活動が盛んで、福祉・環境・まちづくり・子育てなどをテーマにした団体が活発に活動、行政と住民のパートナーシップによるまちづくりを進めている。平成 18 年度からは、屎尿と生ごみのバイオマスガス化発電および液肥生産を開始し、本格的な有機のまちづくりを開始し、生ごみ分別への 9 割を越える高い住民協力がある。

おおき循環センター「くるるん」はゴミも資源として活用することを目的とし、町の真中に建設されたもので、住民自らが分別した生ゴミをいつでも見ることができるようなリサイクル施設の建設を進めていくことが大切である。

隣接して建設されている「道の駅」に来た人に、ゴミ処理施設を見てもらうように情報発信をしている。今まで住民からは今まで目立たないところにあった施設を人の集まる場所に建設をし、環境について住民意識を向上させている。海外からの視察もあるとのことであった。

住民が生ゴミ資源を支えていく意識改革重要であり、行政も住民との協働により生ゴミリサイクルに取り組んでほしい。

以上